

目的 保育所が人間形成の場として大きく問題とされるようになったのは、児童憲章の制定以来のことである。したがってなお日浅く、その保育にたずさわる保母の姿はまちまちである。そこで私たちは、職業興味と動態的体質との関係から、保母の実態を把握し、今後私たち保母のあり方の反省にしたい。

方法 対象者は長野県諏訪郡、諏訪市、岡谷市の保育所の保母九五名、長野県保育専門学院の一、二年生二四五名 計二四〇名 調査 昭和三年八月におこなう。学生のうち当時の一年生については、昭和三年二月に同一調査をおこない、その変化をみる。

各対象者毎に、職業興味テスト(藤原喜悦著)と、小坂動態的体質評定を配布し、同時に保母には、経験年数、就職年令、及びその動機などを記入してもらう。

① 結果とその考察(職業興味テストについて)

① 保母と学生の興味の一般的傾向は、对人的社会的領域と実業的領域が高く、実業的領域が低くなっている。

② 保母と学生との比較では、保母は对人的社会的領域と実業的領域が高く、学生は自然的領域が高い。

③ 二年生になると一年生に比して、对人的社会的領域と自然的領域が低くなり、研究的領域が高くなる傾向がみられる。

④ 一年生から二年生に学年が進むにつれて保母の得点に近づくかどうか? 自然的領域、実業的領域、機械的領域では保母の値に近づく傾向があり、研究的領域では高く、对人的社会的領域では低くなる

⑤ 学院生徒が卒業して、実際に職業に就いた場合、どのように変わっていくか興味を持って研究を続けている。

⑥ 他の地域(例えば農村と都市)での成績はどうか、また他の職業との比較などの問題も今後の課題として研究してみたい。

職業興味テストより見たる 保母についての研究

第二報 殊に動態的体質学的考察

長野県立保育専門学院

小 尾 書 子

第二報(殊に動態的体質学的考察)においては第一報と同一人に対し体質調査(小坂動態体質評定)を試みたものである。体質について(SE, WM 体質的特質一例)

S E 体質		W M 体質	
寒さまけ		暑さまけ	
汗かきでない		汗かきである	
適応が遅い		適応が速い	
こり性		こり性でない	
夜型作業(宵はれ朝ねぼう)		朝型作業(早ね早起き)	

SEはSummer Evening, WMはWinter Morning, MはMiddleの各々頭文字を略したものでそれぞれの場合において身体生理機能は順調におこなわれるものである。

結果とその考察

① 体質の一般傾向において諏訪郡の保母は、M体質が四八%、学生はSE体質の四二%にそれぞれ割合を多く示し、体質指数においては保母の平均体質指数は五八、六である。学生は五八、一であ

り、日本人の女子の平均体質指数(四〇〜四一)に比較すると極めて高い。すなわちS.E.的である。なお体質の分布において都会地と農山村では山村にS.E.傾向あり、長野県は一般に指数が高い。特に諏訪地方は高い。(新潟大学公衆衛生教室調査)

本研究は単に保母の特性のみならず地域性をも密接に反映しているものと思われるので、他の地域における同様の調査研究と比較してみたいと考える。

②学生の体質において二年間の研究を通してみると、二年生が一年生よりS.E.的である。これはクラスの構成人員によるものだけでなく、二年生になると、よりS.E.化するという一般傾向を得た。これは当学院の環境による体質の動態とも考えられるが、なお、個人的追求の必要を認める。

③体質評定の結果、S.E.体質の者は興味テストの調査において機械的、研究的領域に、W.M.体質の者は、社会的対人的芸術的領域にそれぞれ得点を高く示す傾向がみられるという体質と興味についての関連性をみた。

保育所保母の実態について (1)

日本福祉大学
土方康夫

保母の資質向上を阻む諸条件を明らかにするために、保母の実態を知ろうとすることが本調査の目的である。

調査は質問紙法により、愛知県下の保母に平均に行渡るよう保母の会を通じて配布した。回収されたものは七七施設二三名で回収率は五一、三%である。

I 一般的事項

(1)年令 平均年令は二八才で、都市より郡部の方が若い。
(2)学歴 八五%以上が旧制高女あるいは新制高校を卒業し、検定試験で資格をとったものである。

(3)保母になった動機 「性格が合う」などの個人的な動機が多く、社会的意義にもとづく、もっと積極的な動機は少ない。

II 勤務状態

(1)勤務時間 平均九時間五〇分の労働時間であり、しかも超勤手当があるのは全体の四四%に過ぎない。

(2)産休についてみると市一公が五七、四%で、郡一公、市一私、郡一私と実施率は急激に落ち、郡一私に至ってはいずれの休暇も皆無。給料や夏期・年末などの手当についても郡一私は最悪の条件におかれている。

III 健康状態

八〇%以上の保母が、朝起きたときに前日の疲労を時々、もしくはいつも感じると訴えている。保母になってから起りやすくなった健康障害としては、胃病、のどの痛み、風邪をひきやすい、月経周期の不順、イライラしやすいなどが挙げられる。

調査対象

設立主体別	地域別		地位別			年令別										不明			
	市	郡	主任 保母	助手 保母	補助 保母	19	22	25	38	31	34	37	39	50					
公立	26	25	51	143	80	72	141	10	14	63	37	30	19	14	10	31	4	1	
私立	29	27	28	28	26	34	25	20											

××